

Ⅱ. 調査の結果

1. 植生の現況及び推移

1～3段:メッシュ数 4段:指定区分計構成比 5段:全国メッシュ計構成比

植生 区分	区分内容	調査回		佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島	沖 縄	全 国
Ⅰ	寒帯・高山帯自然植生	3	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,158
		4	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,158
		5	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,158
			縦構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
			横構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
Ⅱ	亜寒帯・亜高山帯自然植生	3	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	16,147
		4	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	16,110
		5	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	15,947
			縦構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
			横構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
Ⅲ	亜寒帯・亜高山帯代償植生	3	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,050
		4	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,074
		5	メッシュ数	0	0	0	0	0	0	0	1,266
			縦構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
			横構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
Ⅳ	ブナクラス域自然植生	3	メッシュ数	1	3	121	95	201	14	0	45,148
		4	メッシュ数	1	2	120	95	201	14	0	44,704
		5	メッシュ数	1	2	120	95	201	14	0	44,328
			縦構成比	0.0	0.0	1.7	1.6	2.8	0.2	0.0	12.0
			横構成比	0.0	0.0	0.3	0.2	0.5	0.0	0.0	100.0
Ⅴ	ブナクラス域代償植生	3	メッシュ数	5	2	20	99	304	1	0	42,232
		4	メッシュ数	5	2	21	100	301	1	0	41,612
		5	メッシュ数	5	2	34	100	302	1	0	41,860
			縦構成比	0.2	0.0	0.5	1.7	4.2	0.0	0.0	11.4
			横構成比	0.0	0.0	0.1	0.2	0.7	0.0	0.0	100.0
Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	3	メッシュ数	17	184	93	168	607	1,883	894	6,070
		4	メッシュ数	17	184	84	167	596	1,859	893	5,964
		5	メッシュ数	17	183	84	167	590	1,844	889	5,925
			縦構成比	0.7	4.4	1.2	2.8	8.3	21.5	42.3	1.6
			横構成比	0.3	3.1	1.4	2.8	10.0	31.1	15.0	100.0
Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	3	メッシュ数	312	1,773	1,544	1,727	982	950	182	58,112
		4	メッシュ数	310	1,762	1,530	1,726	1,021	965	182	57,357
		5	メッシュ数	308	1,757	1,517	1,729	1,033	986	179	57,110
			縦構成比	13.4	42.4	22.0	29.1	14.5	11.5	8.5	15.5
			横構成比	0.5	3.1	2.7	3.0	1.8	1.7	0.3	100.0
Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生	3	メッシュ数	3	12	8	20	37	132	117	2,513
		4	メッシュ数	3	12	8	20	37	132	117	2,488
		5	メッシュ数	3	12	8	20	37	132	117	2,478
			縦構成比	0.1	0.3	0.1	0.3	0.5	1.5	5.6	0.7
			横構成比	0.1	0.5	0.3	0.8	1.5	5.3	4.7	100.0
Ⅸ	植林地・耕作地植生	3	メッシュ数	1,757	1,852	4,736	3,505	4,668	4,972	711	169,234
		4	メッシュ数	1,757	1,854	4,751	3,509	4,642	4,973	710	170,598
		5	メッシュ数	1,758	1,849	4,748	3,504	4,623	4,956	715	170,508
			縦構成比	76.6	44.6	68.7	59.0	64.8	57.8	34.0	46.2
			横構成比	1.0	1.1	2.8	2.1	2.7	2.9	0.4	100.0
Ⅹ	その他	3	メッシュ数	197	309	379	310	335	618	194	26,806
		4	メッシュ数	201	325	389	320	337	629	200	27,545
		5	メッシュ数	203	338	396	324	350	644	204	28,147
			縦構成比	8.8	8.2	5.7	5.5	4.9	7.5	9.7	7.6
			横構成比	0.7	1.2	1.4	1.2	1.2	2.3	0.7	100.0
合 計		3	メッシュ数	2,292	4,135	6,901	5,933	7,134	8,570	2,098	368,470
		4	メッシュ数	2,294	4,141	6,903	5,937	7,135	8,573	2,102	368,610
		5	メッシュ数	2,295	4,143	6,907	5,939	7,136	8,577	2,104	368,727
			縦構成比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			横構成比	0.6	1.1	1.9	1.6	1.9	2.3	0.6	100.0

表Ⅱ.1.5 亜寒帯・亜高山帯・ブナクラス域・ヤブツバキクラス域自然植生（各上位 10 都道府県）

亜寒帯・亜高山帯自然植生								
順位	メッシュ数				都道府県内構成比(%)			
	都道府県	第3回	第4回	第5回	都道府県	第3回	第4回	第5回
1	北海道	11,715	11,687	11,535	北海道	13.95	13.91	13.73
2	長野	1,437	1,430	1,424	長野	11.06	11.01	10.96
3	群馬	439	438	438	富山	9.48	9.45	9.45
4	富山	391	390	390	群馬	7.12	7.10	7.10
5	岐阜	319	317	315	山梨	5.69	5.69	5.64
6	新潟	271	271	271	栃木	3.17	3.22	3.22
7	山梨	242	242	240	岐阜	3.15	3.13	3.11
8	静岡	211	211	210	静岡	2.84	2.84	2.82
9	栃木	196	199	199	新潟	2.19	2.19	2.19
10	山形	198	198	198	山形	2.15	2.15	2.15
	全国	16,147	16,110	15,947	全国	4.38	4.37	4.32

ブナクラス域自然植生								
順位	メッシュ数				都道府県内構成比(%)			
	都道府県	第3回	第4回	第5回	都道府県	第3回	第4回	第5回
1	北海道	28,273	28,028	27,716	北海道	33.67	33.37	32.99
2	新潟	2,093	2,085	2,085	山形	19.84	19.78	19.74
3	山形	1,831	1,825	1,822	富山	17.81	17.79	17.79
4	秋田	1,819	1,808	1,802	新潟	16.91	16.84	16.84
5	青森	1,639	1,623	1,618	青森	16.46	16.29	16.22
6	福島	1,507	1,493	1,486	秋田	15.51	15.41	15.36
7	岐阜	1,102	1,088	1,080	福島	11.18	11.07	11.02
8	岩手	1,063	987	980	岐阜	10.88	10.74	10.66
9	長野	899	891	877	山梨	9.80	9.80	9.78
10	富山	735	734	734	群馬	9.37	9.19	9.13
	全国	45,148	44,704	44,328	全国	12.25	12.13	12.02

ヤブツバキクラス域自然植生								
順位	メッシュ数				都道府県内構成比(%)			
	都道府県	第3回	第4回	第5回	都道府県	第3回	第4回	第5回
1	鹿児島	1,883	1,859	1,844	沖縄	42.61	42.48	42.25
2	沖縄	894	893	889	鹿児島	21.97	21.68	21.50
3	宮崎	607	596	590	宮崎	8.51	8.35	8.27
4	岩手	486	440	436	香川	5.45	5.34	5.34
5	長崎	184	184	183	奈良	5.21	4.81	4.64
6	山口	171	171	171	東京	4.47	4.46	4.45
7	大分	168	167	167	長崎	4.45	4.44	4.42
8	三重	163	163	162	三重	2.97	2.97	2.95
9	奈良	181	167	161	山口	2.90	2.90	2.90
10	高知	115	114	114	岩手	3.15	2.85	2.82
	全国	6,070	5,964	5,925	全国	1.65	1.62	1.61

1.3 全国の植生自然度の現況及び推移

全国の植生を表Ⅰ.3.3に示したように人為による影響度合に応じて10ランクの植生自然度に区分し集計した結果を表Ⅱ.1.6、表Ⅱ.1.7、図Ⅱ.1.5及び図Ⅱ.1.6に示す。

出現メッシュ数の構成比でみると、全国では、植林地（植生自然度6；24.8%）、二次林（植生自然度8・7；23.9%）、農耕地（植生自然度3・2；22.9%）の順で構成比は高い。これらの割合に二次草原（植生自然度5・4；3.6%）の占める割合をあわせると75.2%となり、わが国の約4分の3は二次的な植生で構成されていることがわかる。

一方自然植生（植生自然度10・9）は19.0%しかみられず、国土の2割も満たない。特に自然草原（植生自然度10）の占める割合は1.1%しかない。

地方別に見ると、北海道地方及び沖縄地方では自然植生（植生自然度10・9）の割合（それぞれ、48.7%、47.9%）が最も高い。東北地方、中部地方、近畿地方では二次林（植生自然度8・7）と植林地（植生自然度6）の占める割合（それぞれあわせて、54.5%、54.8%、65.1%）が高くなっている。関東地方では農耕地（植生自然度3・2）の占める割合（36.6%）が高く、中国地方では二次林（植生自然度8・7）の割合（50.9%）が高い。また、四国地方、九州地方では植林地（植生自然度6）の割合（それぞれ、41.8%、36.5%）が最も高い。

これらの状況について、植生改変による植生量減少の視点から、昭和63年度（1988年）に取りまとめた第3回調査結果、平成5年度（1994年）に取りまとめた第4回調査結果と第5回調査結果との比較すると、大局的な特徴は、第3回調査、第4回調査及び第5回調査とも同様の傾向を示している。

しかし、植生自然度別にみると、全国的には、自然植生（植生自然度10・9）及び二次林（植生自然度8・7）の構成比は減少しており、その傾向は二次林（植生自然度8・7）のほうが顕著である。一方、植林地（植生自然度6）、二次草原（植生自然度5・4）、農耕地（植生自然度3・2）及び市街地・造成地等（植生自然度1）は増加している。

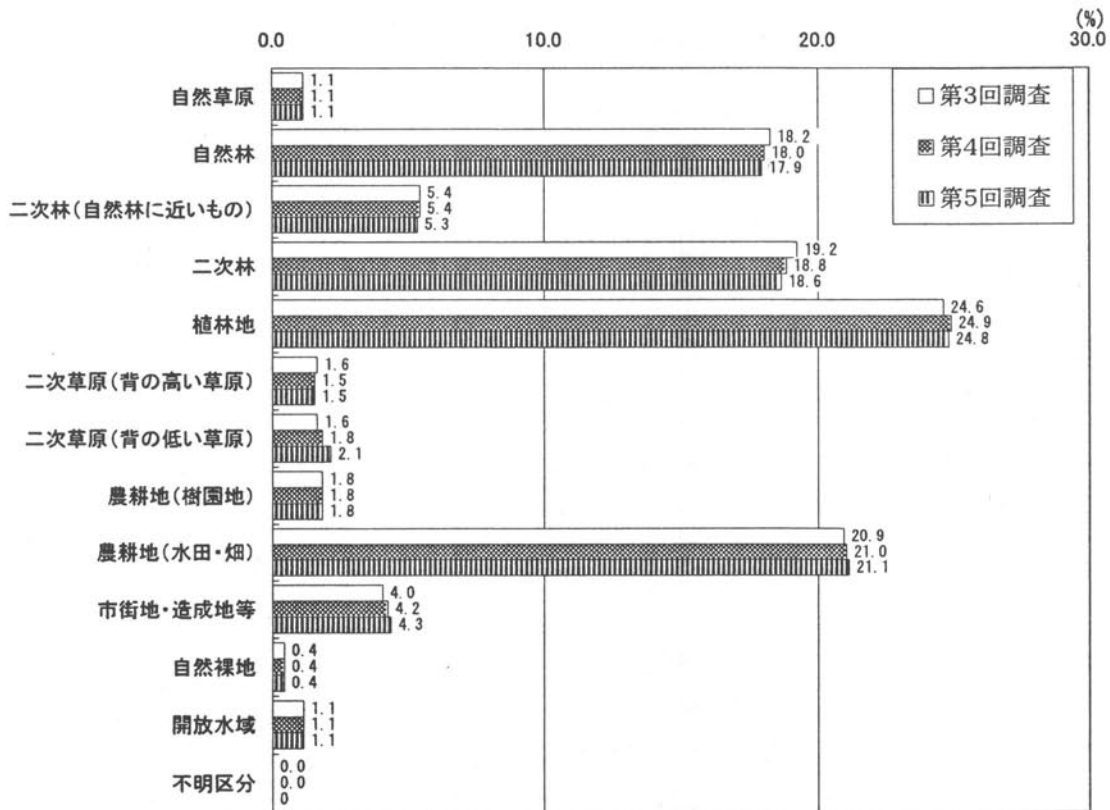
地方別にみると、自然植生（植生自然度10・9）の構成比の減少は、北海道地方（49.6%→49.3%→48.7%）、沖縄地方（48.2%→48.0%→47.9%）、東北地方（15.5%→15.2%→15.2%）で顕著である。一方、二次林（植生自然度8・7）の構成比の減少は、北海道地方及び九州地方を除き各地方とも顕著にみられている。

自然植生（植生自然度10・9）及び二次林（植生自然度8・7）の構成比の変動について、第3回調査－第4回調査間と第4回調査－第5回調査間とを比較すると、どちらの植生自然度とも、北海道地方では第4回調査－第5回調査間の変化の方が大きく、その他の地方では前期間の方が変化は大きい。

下記に、植生自然度別の現況、地方別の現況、都道府県別の現況を示す。

表Ⅱ.1.6 全国の植生自然度別出現頻度と構成比及びその推移

植生自然度	区分内容	メッシュ数の現況			比率(%)		
		第3回調査	第4回調査	第5回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査
10	自然草原	4,038	4,011	3,993	1.1	1.1	1.1
9	自然林	66,979	66,394	65,824	18.2	18.0	17.9
8	二次林(自然林に近いもの)	20,046	19,733	19,598	5.4	5.4	5.3
7	二次林	70,710	69,256	68,540	19.2	18.8	18.6
6	植林地	90,803	91,846	91,414	24.6	24.9	24.8
5	二次草原(背の高い草原)	5,737	5,626	5,568	1.6	1.5	1.5
4	二次草原(背の低い草原)	5,939	6,498	7,591	1.6	1.8	2.1
3	農耕地(樹園地)	6,798	6,817	6,788	1.8	1.8	1.8
2	農耕地(水田・畑)	76,945	77,311	77,695	20.9	21.0	21.1
1	市街地・造成地等	14,841	15,420	15,999	4.0	4.2	4.3
	自然裸地	1,392	1,416	1,420	0.4	0.4	0.4
	開放水域	4,170	4,211	4,227	1.1	1.1	1.1
	不明区分	72	71	70	0.0	0.0	0.0
	合 計	368,470	368,610	368,727	100.0	100.0	100.0



図Ⅱ.1.5 全国の植生自然度別出現頻度からみた分布状況及びその推移

(1) 全国の植生自然度の概要

a. 自然植生（植生自然度 10・9）及び自然林に近い二次林（植生自然度 8）

植生自然度の高い 10・9 の植生は北海道に集中し低海拔高の箇所でもみられるが、それ以外の地域では、大半は高海拔地域に植生自然度の高いところが残されている。中部地方以西になると、ほとんど植生自然度 10・9 はみられない。

湿原や高山の自然草原などの植生自然度 10 に区分される単層の自然植生は、分布域は狭く 1.1%である。植生自然度 9 に区分されるブナ林などに代表される自然林は 17.9%あり、両方合わせた自然植生は 19.0%となっており、国土の 5 分の 1 以下にまで減している。

植生自然度 8 に含まれる自然林に近い二次林は 5.3%である。これらと自然度 10・9 を合わせると 24.3%となり、全国の約 4 分の 1 が自然植生とそれに近い植生となっている。

b. 森林植生（植生自然度 9・8・7・6）

自然林、二次林、植林地を合わせた森林植生（植生自然度 9・8・7・6）は 66.6%を占め、国土のおよそ 3 分の 2 が森林となっている。

これらの森林植生のうち、アカマツ林、コナラ林などに代表される植生自然度 7 の二次林は 18.6%あり、自然林の面積わずかに上回っている。

植生自然度 6 の植林地は全国の 24.8%を占めており、自然度で区分すると最も広い面積を占め、植生自然度 9 の自然林に植生自然度 8 の自然林に近い二次林を加えた合計の 23.1%よりも上回っている。

また、人為影響を受けて生じた二次林（植生自然度 8・7）は全体で国土の 23.2%を占めている。

c. 二次草原（植生自然度 5・4）、農耕地（植生自然度 3・2）、市街地・造成地等（植生自然度 1）

植生自然度 5・4 の二次草原は、国土の 3.6%しかない。

植生自然度 3・2 の農耕地等は 22.9%と植生自然度 6 の植林地に次いで広範囲に分布している。これに植生自然度 1 の市街地・造成地等を合わせると 27.2%となり、国土の 4 分の 1 以上が都市や農耕地などの土地利用の進んだ地域となっている。

d. 二次的な植生

そのため、二次林（植生自然度 8・7）、植林（植生自然度 6）、二次草原（植生自然度 5・6）及び農耕地（植生自然度 3・2）を合わせた二次的な植生は西日本（沖縄地方を除く）の各地方では 9 割前後の割合を占めるのに対し、東日本（北海道地方を除く）各地方では 8 割前後の割合となっている。

これら二次的な植生は、全国では 75.2%となり、国土のおよそ 4 分の 3 は二次的な植生に占められていることになる。

(2) 地方別にみた植生自然度の現況

植生自然度からみた地方別出現頻度の構成比を表Ⅱ.1.7、図Ⅱ.1.6に示す。各地方別の特徴は次のとおりである。

a. 北海道地方

自然林（植生自然度 9）の構成比が 46.5%と最も高く、次いで農耕地（植生自然度 3・2）（21.2%）、植林地（植生自然度 6）（17.0%）がつづく。自然草原（植生自然度 10）は全国でも北海道（46.7%）に偏在しているが、道内での構成比は 2.2%と自然林の 20 分の 1 にも満たない。

植生自然度 8 の自然林に近い二次林と植生自然度 7 の二次林に区分される植生はそれぞれ 2.5%、3.3%と少なく、自然林と植林地の間の中間的な区分が少ないのが特徴である。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（48.7%）は、沖縄地方に次いで少なく 50%を満たさない。

b. 東北地方

自然林（植生自然度 9）は 14.3%と二次林（植生自然度 8・7）（28.2%）、植林地（植生自然度 6）（26.3%）と比較すると 2 分の 1 程度となっている。森林植生（植生自然度 9・8・7・6）に対して農耕地（植生自然度 3・2）の構成比は 22.4%あり、植生自然度区分から見ると多段階の植生がほぼ同程度混在している。自然草原（植生自然度 10）の割合は少なく、わずか 0.9%である。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2 の占める割合）の占める割合は、東日本の中で最も大きく 80%を越えている。

c. 関東地方

自然林（植生自然度 9）は 5.9%であり、東北地方や中部地方が 10%以上あるのに対し、少ない状況である。森林植生では植林地（植生自然度 6）（22.7%）、二次林（植生自然度 8・7）（17.1%）の構成比が高く、両者で関東地方全体の面積の約 4 割を占めている。自然草原（植生自然度 10）は 1.1%と少ないが、他地方と比較すると、沖縄地方、北海道に次いで多い状況である。耕作地（植生自然度 3・2）（36.6%）、市街地・造成地等（植生自然度 1）（11.9%）が特に高いのが特徴である。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（78.8%）は、全国平均値に近い。

d. 中部地方

全体的にそれぞれの植生自然度の構成比をみると、東北地方によく似ており、自然林（植生自然度 9）（14.2%）は、二次林（植生自然度 8・7）（30.8%）の2分の1程度である。これに植林地（植生自然度 6）（24.0%）を加えた森林植生は約7割となる。自然草原（植生自然度 10）は0.9%であり、生育範囲は限られている。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（78.1%）は、東日本の中では北海道に次いで低い。

e. 近畿地方

自然草原（植生自然度 10）（0.5%）と自然林（植生自然度 9）（2.9%）を合わせた自然植生は3.4%であり、中国地方の次に小さな割合となっている。一方、近畿地方で最も大きな割合を占めるのは、二次林（植生自然度 8・7）（34.2%）で、植林地（植生自然度 6）（30.9%）、農耕地（植生自然度 3・2）（18.6%）がこれに続く。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（85.1%）は、西日本の中では沖縄地方に次いで低い。

f. 中国地方

中国地方は全国の中で最も自然林（植生自然度 9）の構成比が小さい地域である（1.4%）。二次林（植生自然度 8・7）（50.9%）が最も大きな割合を占め、そのほとんどは植生自然度 7 の二次林（48.3%）である。次いで農耕地（植生自然度 3・2）が20.5%を占めており、植林地（植生自然度 6）は沖縄地方に次いで小さく16.9%である。自然草原（植生自然度 10）（0.2%）はわずかではあるがみられる。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（94.3%）は、全国の中で最も高い。

g. 四国地方

自然林（植生自然度 9）の構成比（3.6%）は近畿地方（2.9%）や中国地方（1.4%）に次いで小さいが、二次林（植生自然度 8・7）（31.3%）、植林地（植生自然度 6）（41.8%）を含めた森林植生は全体の76.7%で全国の中で最も高い。特に、植林地の割合が高くなっている。一方、農耕地（植生自然度 3・2）の構成比は18.2%で全国で最も低い。自然草原（植生自然度 10）の割合は少なく、わずか0.3%である。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（92.3%）は、全国の中で中国地方に次いで高い。

h. 九州地方

自然林（植生自然度 9）の占める割合は西日本の中では高く 8.5%である。森林植生では植林地（植生自然度 6）の構成比（36.5%）が四国地方に次いで大きく、二次林（植生自然度 8・7）の構成は 18.1%を占め、植生自然度 8 の割合が高いのが特徴である。耕地（植生自然度 3・2）（27.2%）は、関東地方（36.6%）、沖縄地方（32.8%）に次いで高い。自然草原（植生自然度 10）の割合（0.5%）は近畿地方（0.5%）、中国地方（0.2%）、四国地方（0.3%）と同様に低い。

二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（85.6%）は、沖縄地方での割合の約 2 倍程度の値がみられている。

i. 沖縄地方

自然林（植生自然度 9）の割合は 42.3%で北海道（46.5%）と同様に高く、自然草原（植生自然度 10）（5.6%）を含めると、沖縄地方の約 5 割が自然植生で占められる。二次林（植生自然度 8・7）（1.2%）や植林地（植生自然度 6）（1.1%）などの割合は小さい。次いで農耕地（植生自然度 3・2）（32.8%）、二次草原（植生自然度 5・4）（7.6%）の順となる。他の地方と比較して、自然林（植生自然度 9）が多く、二次林や植林地が少ない特異的な植生状況がみられる。

そのため、二次的な植生（植生自然度 8・7・6・5・4・3・2）の占める割合（42.7%）は、全国の中で最も低く、50%を満たない。